



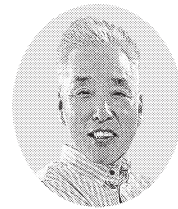
* C C 1 2 0 7 0 9 0 0 0 0 0 4 7 2 *

09日付 山城A朝刊通し
2017年06月05日21時35分44秒
出力先省略 箱組

◎E・新随想箱
ID=CC12070900000472
校正回数=57 95倍 0× 21行 0

随想やましろ

21世紀の医療変革の一つは在宅医療です。体が不自由になった高齢者やがんの方、医療ケアが必要な子供たち、そして難病の方などの通院困難な患者さんが住み慣れた自宅で治療を受けられる形態が在宅医療です。大きな手術でなければ、多くの治療が病院と同レベルで可能になっています。自分の暮らしを大切にしながら治療を受けることができるようになりまし



門阪 庄三

常、在宅医は自分の医院で外来診療をやりつつ訪問診療します。一方訪問看護師は別の訪問看護ステーションに属して、もっぱら訪問で看護をしています。つまり別々の組

暮らしの中の在宅医療

織に属しながら一つの在宅チームの核を作っています。これに多くの専門職や後方支援病院が加わって連携チームが完



「散歩の途中で」
(コスモスの会 祐谷知須子)

は病院とは違って「してほしいこと」「してほしいこと」が表出されやすい環境なのです。大きな手術や化学療法を経験したがん患者の方が最期の暮らしの場を自宅で、老いと共

成します。在宅医療は自宅で過ごしたいという本人の意思を尊重することから始まります。これが在宅医療

かどさか・しょうぞう
1947年、京都市下京区生まれ。社会人10年後、39歳で京都府立医科大学卒業。2000年、かどさか内科クリニック開業。現在、宇治久世医師会副会長(在宅担当理事)、NPO法人カフエ類政道代表を務める。